

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 25 号

発行日
2024. 4. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「カネと地位」が人を惑わす！まさかこんなことが！

新たな年度の始まりで、こんな話題を採り上げるとは思ってもいかなかったが、今般の騒動（大谷翔平の元通訳・水原一平氏が起こした違法賭博事件）は、改めて、いろんなことを教えてくれた！その中で、私が一番取り上げたいことは、「カネと地位」が絡むヒロイズムは危険である」ということ、しかも、たとえ大金を稼ぐ身になっても、少なくとも「現役の（若い）時は、それに浸るべきではない」ということである！必ず、「誰かに、それが悪用される！そのことを、若者（大谷）は知るべきである」ということである！

さらに言えば、「プロスポーツ選手の『ヒーロー性』は、そのプレーによってのみ発揮されるべき！」であり、ましてや、他人の借金の肩代わりをすることは（そうではなかったであろうであるが！）、その「ヒーロー性」を自ら冒瀆するものであり、俗な言い方をすれば、「思い上がりも過ぎる！」ということである（これは、決してそれに無縁な高齢者の僻み根性ではない！）！ちなみに、それは、かの「グロブプレゼント」騒動？も同じである！金銭的にはそれが出来ても、あのような形で行う必要があったのかどうか（その重み？様々な思惑が絡む？それらを知ることは、二十代の若者には難しい？）！！

ただし、いずれにしても、これからが勝負である！カネ（収入）の多寡はどうあるうとも、若者（大谷）は、ここから何を学び、そして、今後のプレーに、いかに臨むかである！まさかこんなことになるとは思ってもいなかったかもしれないが、そして、別な意味での高い代償を払うことにはなかったが、それを乗り越えての「スーパーヒーロー」とならなければならない！改めてそう思う！頑張れ、若者（大谷）！

○予定していた旅？は、すべて終わった！

さて、改めて、近年の私のスケジュールからすれば、まことに異例でもあった？県外への旅が（尤も、現役の人であれば、ある意味普通のことかもしれないが！）、この一日（4月1日）で終わった！僅か2か月間で、東京、鹿児島、そして宮崎へと行ったわけであるが、沖縄と違った光景、とりわけ自然風景が、何故か心を和ませてくれた（沖縄には申し訳ないが、九州出身の私である！）。そして、最後の旅であった宮崎においては、もう一つの楽しみであった古墳・史跡探訪（生目古墳群他）も、私なりに（あくまでも！）満足できるものであった（ほとんどが歩きでもあったので、運動療法にもなった？ただし、古代史関係については、別コーナーにて）！

ちなみに、宮崎では、久しぶりに、あの懐かしき「ソメイヨシノ」、そして、季節外れの「つくしんぼ」（ほとんどが「スギナ」状態ではあったが！）を見た。まさに、春爛漫ということであった！ただし、桜の花そのものは、「オオシマザクラ」の方がきれいであった（近くの「総合文化公園」にて）！！どうでもよいことであるが（まったくの俗人？）、最初の一泊は、我が奥さんの意向？で、噂（あるテレビ番組）の「ドゥーミーイン・ホテル」に投宿し、雨模様ではあったが、末の孫（新4年生）と一緒に、奇妙な体験（特に「夜泣きそば」！）となった。ということ、今後の予定は、今のところないが、幸い（こじつけ）娘達の居住地（宮崎／福岡／岡山）は、古代史にとっては重要な場所であるので、機会（口実？）を見つけては訪ねたいと、改めて思うのであるが…

○果たしてどんな動きが出てくるか？私は待っている…！！
ところで、先月（16日）、玉城青少年の家との共催で、「学びつながる地域づくりを考える（オンラインセミナー）」（当期第2回目）を行ったことは、先号でも述べたが、とにかくにも、そこから、新しい動き、新たな、関係者（思いのある人達のネットワークづくりが、いかに生まれる（広がる？）かが、私の関心事（願い）であったことは、繰り返すまでもない（そのための、最後の？働きかけ／お節介？であった）！！

現在、聞くところによると、今回協力してもらった、N県のTさんのところへ行こうという話が出て来ているようであるが（私が同行するかどうかは、今のところ？であるが！）、今後、そのことも含めて、どのように展開していくかである！ただし、現在、新たな年度替わりの時期でもあるので、その具体的な動きは見えない！！まずは、それぞれの部署／活動場所での体制（態勢）づくりが、目下の課題／関心事であるということか？

ただし、そうした、言わば「業務のルーティン化（惰性化？）」は、往々にして問題の先送りや責任の散在・不透明を生み（人が替わるので仕方がないとも言えるが？）、折角のチャンスを見すみす見逃してしまうこともある！！ましてや、新たな人的構成ともなると、様子見やいびつな人間関係を生み出してしまふ恐れもある（結構これは、頻繁に見られる）！！

という中で、そうした、まさに現職のみなさんの思いや苦労も顧みず（本当は、このように言いたくはないのであるが！）、私の方は、その一環として、私なりのスタンスをつくっているのであるが（何せ暇で、自由でもあるので！）、果たして如何に？ちなみに、そのスタンスというのは、そうした「心ある人」達の出会いの場と情報・課題の共有を目指した「簡単に言えば交流」であるが！「岳陽チャンネル」の活性化であり、そこにおける「教育協働アカデミー」のスタートである！具体的なプログラムの創出は、今回、いみじくも一堂に会した4人の人物との話し合いによって決めようと考えているが、果たしてそれが、いつ、どのように実現していくのか？私の眼下の願いは、それなのであるが…

（井上）

○すべては土地(国土)にあり！新人の栄光と苦惱！

今回、再びであるが、かの「イスラエル／パレスチナ問題」を知る(考える)絶対の記事(ネットから)を見つけた！その記事には、次のような文面があった！

第二次大戦後に自分の国を分割されたパレスチナのアラブ人たちがいかに苦しい思いをしてきたか、しかし同時に、ユダヤ人がどうしてあの地にイスラエルを建国しなければならなかったのかが伝わり、深いジレンマを感じます。パレスチナとイスラエルの関係を考えるときに、私たちはどこまで歴史を遡って、この問題の起源を考えるべきでしょうか。双方がともに、この地を自分たちの起源としており、どちらかの側からだけで語るのには不十分です。これを理解するためには、ユダヤ人の数千年の歴史を語らなければならぬし、パレスチナ人の歴史もまた何世紀も昔まで遡ることができる。

詳しい経緯については、これ以上は、ここでは書けない(否、その資格、否々、その能力自体も有していないが！)、本当に、土地(国土)の問題は、まさしく本源的な問題であり(今般のロシア・ウクライナ戦争も然りである)、かの「グレートジャーニー」で始まった、まさに新人(ホモサピエンス)の栄光と苦悩の産物と言えるのかもしれない！すなわち、その土地(国土)を我が物とすることが出来れば、諸資源はもろろであるが、そこにおける権益(生命の保持を含む)のすべてを、自分達自身で享受することが出来るのである！そして、その逆となれば、それこそ悲惨なものとなるわけである！

ただ、残念ながら、その土地(国土)の分配(所有)は、様々な歴史的経緯の中で(多くは戦争や侵略行為を伴って)、時にはいびつで、不安定なものであった！そして、今も、その影響は各地に残っている(否、現在も、そのことが進行中ということもある)！！ただ、その土地(国土)でしか生きていくことが出来ないという覚悟と知恵が、その昔(縄文・弥生)、融台(混血)というものを生み出した！それが、極東の最果て「日本」なのでもある！！

○「顕彰」について思う！

これは、何度か紹介してきた、私(この場合は井上！以下同じ)の受賞に関わる後日談ともなるが、最初の卒業生の有志達が、驚くばかりの賞状額を特注し、私の受賞の「顕彰」を行ってくれた(昨日7日、その取り付けが完了した)！ただ、余りにも立派過ぎて、正直言うと、いささか恐縮している！折角の思いでもあるので、有難く頂いてはいるが、ふと思つのは、何のための、否、誰のための顕彰かというところもある(もちろん彼らを責めるつもりは毛頭ない！そんなことをしたら、彼らに失礼でもある)！！

ところで、先日訪れた宮崎では、県の「総合文化公園」に、6つ？の「銅像」が建立されていた！それぞれ、同県が誇りとした、いわゆる「故郷の偉人」であろうが、あまりにも多く(密集している)、却って軽く見られるようにも思えた(多少斜に構えた言い方をすると、その意義は、どうもそれを建立した側にある)？物象化した顕彰よりも、心のどこかに確と残るようなものが、本当はよい？私はそう思いたいのであるが、もちろんそれは人それぞれである！！

・短歌に託して、人は、花に似て、それぞれに咲く！！
・何故に感ず “カネ” と、地位
・それでも 無縁であれ スーパーヒーローなら！
・懐かしきソメイヨシノ そしてつくしんぼ！
・ただ花自体は オオシマザクラ！！

・待っている！ 今度こそはと 願いつつ
・生きている土地 何を巡って 幾千年！
・顕彰も 一つ間違えば 意義半減！！
・如何にその不幸を 解けると言うのか！！
・気高き発意 彷徨きまうことなかれ！

・頭影も 一つ間違えば 意義半減！！
・気高き発意 彷徨きまうことなかれ！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史探検⑧

○古代日向国の実像を求めて―その1―怪しげな「皇宮神社」！！
さて、この度、別記のように、宮崎を訪れた！僅か4泊5日の旅であったが、もう一つの旅の目的であった、「宮崎神宮」や「生目古墳群」にも行くことができ、新たな発見や気づきを得ることが出来た！なかでも、「宮崎神宮」の元宮とされる「皇宮」神宮の存在は、古代の日向勢力の移動の痕跡として、大いに注目される場所である(当然、それは「神武東征神話」や「日向三代神話」そして、「西都原古墳群」等の真相と関わっている)！！ちなみに、これらの場所は、長女一家の新居から、予想以上に近く、今度また、ゆつくりと探検したいと思つた！

ところで、かの「皇宮神社」についてであるが、「宮崎の宮」の跡と顕彰されているところで、現在の宮崎神宮の西北600mの低い丘に鎮座。祭神は、神日本磐余彦尊(神武天皇)。相殿神として、神武天皇の日向への后神で、東征には同行せずに、日南市油津にある吾平津神社(乙姫神社)に祀られている吾平津姫命。神武天皇とその吾平津姫命の間に生まれた手研耳命。神武天皇と大和の五十鈴媛命との間に生まれた神渟名川耳命(後の綏靖天皇)である。
伝承によると、15才で皇太子に即かれた神武天皇は、生まれ育つた同県西諸郡高野町の狭野神社(旧宮崎神別宮)の地から、その皇宮屋(皇宮神社)に宮居をされたという。45才の時に、宮崎を出発。その聖蹟の地として創建されたとされるが、創始は不詳。旧社殿は、明治10年に、宮崎神宮の摂社とされたらしい。

こうした伝承が、どの位の史実を伝えているのかは、もちろん私には分かり様もないが、はつきりしていることは、その宮崎からは、瀬戸内の土器等が色濃く出土しているということであり、かの神武東征において、豊予海峡(または備讃瀬戸)で出会った海人族とは、彼らのことではなかったかということである！！(つづく) (堂本)
〈編集後記〉 こうして、今号も、一応は出来上がったが、次なる第一歩という点では、まだまだ不満もある！！ここでしか書けないような話題、切込みが、もう少し欲しいということであるが、果たしてどうなっていくのか？そのカギの一つが、最後の古代史関係であるが、相手は遠方もなく大きい(そして複雑)！だが、その突破口は確実にある！！(井上/堂本)